

異字同訓の漢字の使い分け例（報告）（素案）

平成26年〇月〇〇日

文化審議会国語分科会

目 次

はじめに	1
前書き	2
使い分け例の示し方及び見方	2
本 表	
(1) ア行 (「あう」～)	4
(2) カ行 (「かえす・かえる」～)	11
(3) サ行 (「さがす」～)	14
(4) タ行 (「たえる」～)	17
(5) ナ行 (「ない」～)	21
(6) ハ行 (「はえ・はえる」～)	22
(7) マ行 (「まざる・まじる・まぜる」～)	25
(8) ヤ行 (「や」～)	26
(9) ワ行 (「わかれる」～)	27

<参考資料>

文化審議会国語分科会委員名簿	○
小委員会の設置について	○
文化審議会国語分科会漢字小委員会委員名簿	○
審議経過	○
「異字同訓」の漢字の用法 (国語審議会漢字部会, 昭和47年6月)	○
「異字同訓」の漢字の用法例 (追加字種・追加音訓関連) (文化審議会国語分科会, 平成22年6月)	○

はじめに

第13期文化審議会国語分科会（以下「分科会」という。）は、平成25年5月17日に第1回の分科会を開催し、これまで分科会に置かれていた日本語教育小委員会に加え、新たに漢字小委員会を設置し、それぞれの課題に対して、検討を重ねてきた。このうち、漢字小委員会（以下「小委員会」という。）では、平成25年5月17日の第1回以来、計7回の小委員会（このほか計8回の漢字打合せ会）を開催して、前期分科会がまとめた「国語分科会で今後取り組むべき課題について（報告）」で挙げられた課題のうち、「2常用漢字表の手当てについて」の「(1)「異字同訓」の漢字の用法」の見直しについて」を取り上げ、検討してきた。

なお、検討に当たっては、同課題に関し、前期分科会がまとめた報告に示されている、次のような基本認識に沿って、その具体化に向け、慎重に検討を重ねてきた。

（1）「異字同訓」の漢字の用法」の見直しについて

国語審議会漢字部会が昭和47年に総会の参考資料として作成した「異字同訓」の漢字の用法」は、同音で意味の近い語が、漢字で書かれる場合、その慣用上の使い分けの大体を、用例で示したものであり、現在も新聞、放送、出版関係など各方面で参考にされている。しかし、作成以来、既に40年以上経過しており、「異字同訓」の漢字の用法」で示された使い分けの中には、現時点における漢字使用の実態に合わないものも出てきている。また、今回の常用漢字表の改定に際して、新たに生じた異字同訓の漢字の使い分け（例えば、「こたえる（答⇔応）」、「つくる（作⇔造⇔創）」など）については、平成22年の文化審議会答申「改定常用漢字表」の「参考」にある「異字同訓」の漢字の用法例（追加字種・追加音訓関連）」として整理されたが、昭和47年の「異字同訓」の漢字の用法」と一体化して示していくなど、一覧性という観点から工夫の余地がある。

このため、「異字同訓」の漢字の用法」の見直しについて、今後、具体的に検討していく必要がある。その際、異字同訓の使い分けに関しては、明確に使い分けを示すことが難しいところがあること、また、使い分けに関わる感覚的な個人差もあることなどから、使い分けの示し方については慎重に検討する必要がある。

本報告「異字同訓の漢字の使い分け例」は、上述の経緯により小委員会で作成したものを分科会において了承したものである。以下、常用漢字表に掲げられた漢字のうち同じ訓を持つものについて、その使い分けの大体を、「前書き」「使い分け例の示し方及び見方」及び「本表」に分けて報告する。

異字同訓の漢字の使い分け例（素案）

＜前書き＞

- 1 この「異字同訓の漢字の使い分け例」（以下「使い分け例」という。）は、常用漢字表に掲げられた漢字のうち同じ訓を持つものについて、その使い分けの大体を簡単な説明と用例で示したものである。
- 2 この使い分け例は、昭和47年6月に国語審議会が「当用漢字改定音訓表」を答申するに際し、国語審議会総会の参考資料として、同審議会の漢字部会が作成した「異字同訓の漢字の用法」と、平成22年6月の文化審議会答申「改定常用漢字表」の「参考」として、文化審議会国語分科会が作成した「異字同訓」の漢字の用法例（追加字種・追加音訓関連）を一体化し、現在の表記実態に合わせて一層使いやすく分かりやすいものとなるよう作成したものである。作成に当たっては、簡単な説明を加えるとともに必要な項目の追加及び不要な項目の削除を行い、上記の2資料に示された使い分けを基本的に踏襲しつつ、その適切さについても改めて検討した上で必要な修正を加えた。
- 3 異字同訓の漢字の使い分けに関しては、明確に使い分けを示すことが難しいところがあることや、使い分けに関わる年代差、個人差に加え、各分野における表記習慣の違い等もあることから、ここに示す使い分け例は、一つの参考として提示するものである。したがって、ここに示した使い分けとは異なる使い分けを否定する趣旨で示すものではない。また、この使い分け例は、必要に応じて、仮名で表記することを妨げるものでもない。
- 4 常用漢字表に掲げられた複数の同訓字の使い分けの大体を示すものであるから、例えば、常用漢字表にある「預かる」と、常用漢字表にない「与（あずか）る」とのような、同訓の関係にあっても、一方が常用漢字表にない訓である場合は取り上げていない。
また、例えば、「かたよる」という語の場合に、「偏る」と表記するか、「片寄る」と表記するかなど、同語の異表記及びそれに類するものについても取り上げていない。

＜使い分け例の示し方及び見方＞

- 1 この使い分け例は、常用漢字表に掲げる同訓字のうち、133項目について示した。それぞれの項目は五十音順に並べてある。
- 2 項目の見出しに複数の訓が並ぶ場合は、例えば、「あがる・あげる」「うまれる・うむ」のように、五十音順に並べてある。
- 3 それぞれの項目ごとに、簡単な説明と用例を示すことで、使い分けの大体を示した。簡単な説明には、主としてその語の語義を挙げてある。また、そこで示した語義と用例とがおおむね対応するように、それぞれの順序を考慮して配列してある。例えば、項目「あてる」のうち、「当てる」は、

【当てる】触れる。的中する。期待する。
胸に手を当てる。ボールを当てる。くじを当てる。当てが外れる。

と示してある。この例では、「触れる」の用例として「胸に手を当てる。」、「的中する」の用例として「ボールを当てる。くじを当てる。」、「期待する」の用例として「当てが外れる。」がそれぞれ対応している。全ての項目の語義と用例は、そのような考え方に基づいて並べてある。

なお、この使い分け例では、同訓字の使い分けの大体を示すことが目的であるので、語義の示し方やその取上げ方についても、当該の目的に資する限りにおいて便宜的に示すものである。したがって、例えば、見出し語の「変える・変わる」の場合、それぞれの語に対応させて、語義を「前と異なる状態にする・前と異なる状態になる」とはせず、2語の共通語義という扱いで、「前と異なる状態になる」だけを示してある。

4 使い分けを示すのに、対義語を挙げるのが有効である場合には、

のぼる 【上る】(⇔下る)。 【昇る】(⇔降りる・沈む)。

というように、「⇔」を用いてその対義語を示した。
また、各項目の用例の中には、

小鳥が木の枝に止(留)まる。 末永(長)く契る。

というように、括弧を付して示したものがある。これは、例えば、「括弧外の漢字」である「止」に代えて「括弧内の漢字」である「留」を用いることもできるということを示すものである。なお、このことは、括弧の付いていない漢字について、その漢字に代えて別の漢字を用いることを否定しようとする趣旨ではない。

5 必要に応じて使い分けの参考となる補足説明を示した。当該の補足説明が何に対する補足説明であるのかを明示するために、対象となる部分には「*」を付した。
補足説明には、

* 「勧める」と「薦める」の使い分けについては、例えば、「読書」といった行為(本を読む)をするように働き掛けたり、促したりする場合に「勧める」を用い、「良書」や「候補者」といった特定の物や人がそれにふさわしい、望ましいとして推薦する場合に「薦める」を用いる。

* 「校長をはじめ、教職員一同……」などという場合の「はじめ」については、漢字を当てるのであれば、その意味から考えて、「始」を当てることになるが、仮名で書かれることも多い。

というように、使い分けの要点や、一般的な表記の実態などを必要に応じて示した。上記の「はじめ」の補足説明のように、常用漢字表にある訓であっても、漢字より仮名で書く方が一般的である場合などについても示した。

また、上記4で述べた用例中に括弧が付いているものについては、その全てに、「括弧外の漢字」と「括弧内の漢字」の使い分けに関わる補足説明を示した。

本表（素案）

あう

【会う】主に人と人が顔を合わせる。

客と会う時刻。人に会いに行く。駅でばったり友人と会った*。投票に立ち会う。
二人が出会った場所**。

【合う】一致する。調和する。互いにする。

意見が合う。答えが合う。計算が合う。目が合う。好みに合う。部屋に合った家具。
割に合わない仕事。会議で話し合う。幸運に巡り合う*。

【遭う】思わぬことや好ましくない出来事に遭遇する。

思い掛けない反対に遭う。災難に遭う。にわか雨に遭う。

* 「駅でばったり友人とあった」の「あう」については、「思わぬことに遭遇する」と捉えて、「遭」を当てることもあるが、「友人と顔を合わせる」という視点から捉えて、「会」を当てるのが一般的である。

** 「であう」については、「駅前で偶然旧友と出会う」「生涯忘れられない作品と出会う」のように「人や、その人にとって強い印象を受けたもの、価値あるものと出くわす」意では「出会う」、また、「事故に出会う」や「二つの川が出会う地点」のように「物事や事故などに出くわす。合流する」意では「出合う」と表記することが多い。「巡りあう」の「あう」も「互いに出くわす」意で「合」を当てるが、「出くわす」ものが人同士の場合には「人と人が顔を合わせる」という視点から捉えて、「会」を当てることもできる。

あからむ

【赤らむ】赤くなる。

顔が赤らむ。夕焼けで西の空が赤らむ。

【明らむ】明るくなる。

日が差して部屋の中が明らむ。次第に東の空が明らんでくる。

あがる・あげる

【上がる・上げる】位置・程度などが高い方に動く。与える。声や音を出す。終わる。

二階に上がる。地位が上がる。料金を引き上げる。成果が上がる。腕前を上げる。
お祝いの品物を上げる。歓声が上がる。雨が上がる。

【揚がる・揚げる】空中に浮かぶ。場所を移す。油で調理する。

国旗が揚がる。花火が揚（上）がる*。たこ揚げをして遊ぶ。船荷を揚げる。
海外から引き揚げる。天ぷらを揚げる。

【挙がる・挙げる】はっきりと示す。結果を残す。執り行う。こぞってする。捕らえる。

例を挙げる。手が挙がる。勝ち星を挙げる。式を挙げる。国を挙げて取り組む。
全力を挙げる。犯人を挙げる。

* 「花火が揚がる」は、空中に浮かぶ花火の様子に視点を置いた表記であり、花火が空高く上がっていく様子に視点を置いた場合には「花火が上がる」と書くことが多い。

あく・あける

【明く・明ける】目が見えるようになる。期間が終わる。片が付く。

子犬の目が明く。夜が明ける。年が明ける。喪が明ける。らちが明かない。

【空く・空ける】からになる。

席が空く。空き箱。家を空ける。時間を空ける。

【開く・開ける】ひらく。

幕が開く。ドアが開かない。店を開ける。窓を開ける。そっと目を開ける。

あし

【足】足首から先の部分*。歩く、走る、行くなどの動作に見立てたもの。
足に合わない靴。足の裏。足しげく通う。逃げ足が速い。出足が鋭い。
客足が遠のく。足が出る。

【脚】動物の胴から下に伸びた部分。また、それに見立てたもの。
キリンの長い脚。脚の線が美しい。机の脚（足）*。

*「足」は、「脚」との対比においては「足首から先の部分」を指すが、「足を組む」「足を伸ばす」「手足が長い」など、脚の部分を含めた全体を指して用いる場合もある。「机のあし」に「足」を当てることができるのは、このような使い方に基づくものである。

あたい

【価】値段。価格。
手間に見合った価を付ける。

【値】値打ち。文字や式が表す数値。
千金の値がある。称賛に値する。未知数 x の値を求める。

あたたかい・あたたかだ・あたたまる・あたためる

【温かい・温かだ・温まる・温める】冷たくない。愛情や思いやりが感じられる。
温かい料理。スープを温める。温かな家庭。心温まる話。温かい心。温かい人柄。
温かいもてなし。

【暖かい・暖かだ・暖まる・暖める】寒くない。主に気象や気温で使う。
日ごとに暖かくなる。暖かい日差し。暖かな毛布。暖まった空気。室内を暖める。

あつい

【熱い】温度がとても高く感じられる。感情が高ぶる。
お茶が熱くて飲めない。熱い湯。熱くなって論じ合う。熱い声援を送る。熱い思い。

【暑い】不快になるくらい気温が高い。
今年の夏は暑い。暑さ寒さも彼岸まで。日中はまだまだ暑い。暑い部屋。暑がり屋。

あてる

【当てる】触れる。的中する。期待する。
胸に手を当てる。ボールを当てる。くじを当てる。当てが外れる。

【充てる】ある目的や用途に振り向ける。
建築費に充てる。保安要員に充てる。

【宛てる】手紙などの届け先とする。
本社に宛てて送られた書類。手紙の宛先。

あと

【後】(⇒先・前)。順序や時間などが遅いこと。次に続くもの。
後の祭り。後から行く。後になり先になり。事故が後を絶たない。社長の後継ぎ。

【跡】通り過ぎた所に残された印。何かが行われたり存在したりした印。家督。
車輪の跡。船の通った跡。苦心の跡が見える。縄文時代の住居の跡。
立つ鳥跡を濁さず。父の跡を継ぐ。旧家の跡継ぎ。

【痕】 傷のように生々しく残る印。
壁に残る弾丸の痕。手術の痕。台風の爪痕。傷痕が痛む。

あぶら

【油】 常温で液体状のもの（主に植物性・鉱物性）。
事故で油が流出する。ごま油で揚げる。火に油を注ぐ。水と油。

【脂】 常温で固体状のもの（主に動物性）。
牛肉の脂。脂ぎった顔。脂が乗る年頃。脂汗が出る。

あやしい

【怪しい】 疑わしい。普通でない。はっきりしない。
挙動が怪しい。怪しい人影を見る。怪しい声がる。約束が守られるか怪しい。
空模様が怪しい。

【妖しい】 なまめかしい。神秘的な感じがする。
妖しい魅力。妖しく輝く瞳。宝石が妖しく光る。

あやまる

【誤る】 間違ふ。
使い方を誤る。誤りを見付ける。言い誤る。

【謝る】 わびる。
謝って済ます。落ち度を謝る。平謝りに謝る。

あらい

【荒い】 勢いが激しい。乱暴である。
波が荒い。荒海。気が荒い。金遣いが荒い。荒療治。

【粗い】 細かくない。雑である。
網の目が粗い。きめが粗い。粗塩。粗びき。仕事が粗い。

あらわす・あらわれる

【表す・表れる】 思いが外に出る。表現する。表に出る。
喜びを顔に表す。甘えが態度に表れる。言葉に表す。不景気の影響が表れる。

【現す・現れる】 隠れていたものが見えるようになる。
姿を現す。本性を現す。馬脚を現す。太陽が現れる。救世主が現れる。

【著す】 本などを書いて世に出す。
書物を著す。

ある

【有る*】 (⇔無い)。備わる。ありのままである。
有り余る才能。有り合わせ。有り金。有り体に言えば。

【在る*】 存在する。
財宝の在りかを探る。教育の在り方を論じる。在りし日の面影。

* 「財源がある」「教養がある」「会議がある」「子がある」などの「ある」は、漢字で書く場合、「有」を、また、「日本はアジアの東にある」「責任は私にある」などの「ある」は「在」を当てるが、現在の表記実態としては、仮名書きの「ある」が一般的である。

あわせる

【合わせる】一つにする。一致させる。合算する。

手を合わせて拝む。力を合わせる。合わせみそ。時計を合わせる。調子を合わせる。数を合わせる。

【併せる】別のものを並べて一緒に行く。

両者を併せ考える。交通費を併せて支給する。併せて健康を祈る。清濁併せのむ。

いく・ゆく

【行く】移動する。進む。過ぎ去る。

電車で行く。早く行こう。仕事帰りに図書館に行った。仕事が行くま行かない。行く秋を惜しむ。

【逝く】亡くなる。

彼が逝って3年たつ。安らかに逝った。多くの人に惜しまれて逝く。

いたむ・いためる

【痛む・痛める】肉体や精神に苦痛を感じる。

足が痛む。腰を痛める。今でも胸が痛む。借金の返済に頭を痛める。

【傷む・傷める】傷が付く。壊れる。質が劣化する。

引っ越しで家具を傷める。家の傷みがひどい。髪が傷む。傷んだ果物。

【悼む】人の死を嘆き悲しむ。

故人を悼む。親友の死を悼む。

いる

【入る】中にはいる。ある状態になる。

念入りに仕上げる。仲間入り。気に入る。恐れ入る。悦に入る。

【要る】必要とする。

金が要る。保証人が要る。親の承諾が要る。何も要らない。

うける

【受ける】与えられる。応じる。好まれる。

注文を受ける。命令を受ける。ショックを受ける。保護を受ける。相談を受ける。若者に受ける。

【請ける】仕事などを行う約束をする。

入札で仕事を請ける。納期を請け合う。改築工事を請け負う。下請けに出す。

うた

【歌】曲の付いた歌詞。和歌。

小学校時代に習った歌。美しい歌声が響く。古今集の歌。

【唄】邦楽・民謡など。

小唄の師匠。長唄を習う。馬子唄が聞こえる。

うたう

【歌う】節を付けて声を出す。

童謡を歌う。ピアノに合わせて歌う。

【謡う】 謡曲をうたう。
謡曲を謡う。結婚披露宴で「高砂」を謡う。

うつ

【打つ】 強く当てる。たたく。あることを行う。
くぎを打つ。転倒して頭を打つ。平手で打つ。電報を打つ。心を打つ話。
碁を打つ。芝居を打つ。逃げを打つ。

【討つ】 相手を攻め滅ぼす。
賊を討つ。あだを討つ。闇討ち。義士の討ち入り。相手を討ち取る。

【撃つ】 鉄砲などで射撃する。
拳銃を撃つ。いのししを猟銃で撃つ。鳥を撃ち落とす。敵を迎え撃つ。

うつす・うつる

【写す・写る】 そのとおりに書く。画像として残す。透ける。
書類を写す。写真を写す。ビデオに写る*。裏のページが写って読みにくい。

【映す・映る】 画像を再生する。投影する。反映する。印象を与える。
ビデオを映す*。スクリーンに映す。壁に影が映る。鏡に姿が映る。時代を映す流行語。
彼の態度は生意気に映った。

* 「ビデオに写る」は、被写体として撮影され、画像として残ることであるが、その画像を再生して映写する場合は「ビデオを映す」と「映」を当てる。「ビデオに映る姿」のように、再生中の画像を指す場合は「映」を当てることもある。また、防犯ビデオや胃カメラなど、撮影と同時に画像を再生する場合も、再生する方に視点を置いて「ビデオに映る」と書くこともできる。

うまれる・うむ

【生まれる・生む】 誕生する。新しく作り出す。
京都に生まれる。子供が生まれる*。下町の生まれ。新記録を生む。傑作を生む。

【産まれる・産む】 母の体外に出る。
予定日が来てもなかなか産まれない。卵を産み付ける。来月が産み月になる。

* 「子供がうまれる」については、「出産」という視点を重視して「子供が産まれる」と「産」を当てることもあるが、実際には、「子供の誕生」という視点を重視して「子供が生まれる」と「生」を当てて書くのが一般的である。

うれしい・うれえる

【憂い*・憂える】 心配すること。心を痛める。
後顧の憂い。災害を招く憂いがある。国の将来を憂える。

【愁い*・愁える】 もの悲しい気持ち。嘆き悲しむ。
春の愁い。愁いに沈む。友の死を愁える。

* 「うれしい（憂い・愁い）」は、「うれえ（憂え・愁え）」から変化した言い方であるが、現在は、「うれしい」が一般的である。

おかす

【犯す】 法律や倫理などに反する。
法を犯す。過ちを犯す。罪を犯す。ミスを犯す。

【侵す】 領土や権利などを侵害する。
権利を侵す。国境を侵す。学問の自由を侵す。

【冒す】 あえて行う。損なう。
危険を冒す。激しい雨を冒して行く。病に冒される。

おくる

【送る】 届ける。見送る。次に移す。過ごす。
荷物を送る。声援を送る。送り状。卒業生を送る。順に席を送る。
楽しい日々を送る。

【贈る】 金品などを人に与える。
お祝いの品を贈る。感謝状を贈る。名誉博士の称号を贈る。

おくれる

【遅れる】 時刻や日時に間に合わない。進み方が遅い。
完成が遅れる。会合に遅れる。手遅れになる。開発の遅れた地域。出世が遅れる。

【後れる】 後ろになる。取り残される。
先頭から後（遅）れる*。人に後（遅）れを取る*。気後れする。後れ毛。
死に後れる。

* 「先頭からおくれる」については、「先頭より後ろの位置になる」という意で「後」を当てるが、「先頭より進み方が遅い」という視点から捉えて、「遅」を当てることもできる。
また、「人におくれを取る」についても、上記と同様の考え方で、「後」と「遅」のそれぞれを当てることができる。

おこす・おこる

【起こす・起こる】 立たせる。新たに始める。発生する。目を覚まさせる。
体を起こす。訴訟を起こす。事業を起こす*。持病が起こる。物事の起こり。
やる気を起こす。事件が起こる。朝早く起こす。

【興す・興る】 始めて盛んにする。
産業を興す。国が興る。没落した家を興す。

* 「事業をおこす」の「おこす」については、「新たに始める」意で「起」を当てるが、その事業を「(始めて) 盛んにする」という視点から捉えて、「興」を当てることもできる。

おさえる

【押さえる】 上から力を加えて動かないようにする。確保する。つかむ。
紙の端を押さえる。証拠を押さえる。差し押さえる。要点を押さえる。

【抑える】 勢いを止める。こらえる。
物価の上昇を抑える。反撃を抑える。要求を抑える。怒りを抑える。

おさまる・おさめる

【収まる・収める】 中に入る。収束する。手に入れる。良い結果を得る。
博物館に収まる。目録に収める。争いが収まる。丸く収まる。手中に収める。
効果を収める。成功を収める。

【納まる・納める】 あるべきところに入る。落ち着く。引き渡す。おしまいにする。
国庫に納まる。税を納める。社長の椅子に納まる。胸に納める。注文の品を納める。
歌い納める。見納め。

【治める・治まる】 問題のない状態になる。統治する。
痛みが治まる。せきが治まる。領地を治める。国内がよく治まる。

【修まる・修める】 人格や行いを立派にする。身に付ける。
身を修める。学を修める。ラテン語を修める。

おす

【押す】 上や横などから力を加える。
ベルを押す。印を押す。横車を押す。押し付けがましい。

【推す】 推薦する。推測する。推進する。
会長に推す。推して知るべしだ。計画を推し進める。

おそれ・おそれる

【恐れ・恐れる】 おそろしいと感じる。
死への恐れが強い。報復を恐れて逃亡する。失敗を恐れるな。

【畏れ・畏れる】 おそれ敬う。かたじけなく思う。
神仏に対する畏れ。師を畏れ敬う。畏（恐）れ多いお言葉*。

【虞】** 心配。懸念。

- * 「おそれ多いお言葉」の「おそれ」については、「かたじけなく思う」という意で「畏」を当てるが、「恐れ入る」「恐縮」などの語との関連から、「恐」を当てることも多い。
- ** 「公の秩序又は善良の風俗を害する虞がある……（「日本国憲法」第82条）」というように、「心配。懸念」の意味で用いる「おそれ」に対して「虞」を当てるが、現在の表記実態としては、「恐れ」又は「おそれ」を用いることが一般的である。

おどる

【踊る】 リズムに合わせて体を動かす。操られる。
音楽に乗って踊る。盆踊り。踊り場。踊らされて動く。甘言に踊らされる。

【躍る】 跳び上がる。跳ね上がる。心が弾む。
馬が躍り上がる。小躍りして喜ぶ。胸が躍る。心躍る出来事。

おもて

【表】 (⇔裏)。表面や正面など主だった方。公になること。家の外。
表と裏。表玄関。表参道。畳の表替え。表向き。不祥事が表沙汰になる。表で遊ぶ。

【面】 顔。物の表面や外面。
面を伏せる。湖の面に映る山影。批判の矢面に立つ。

おりる・おろす

【降りる・降ろす】 乗り物から出る。高い所から低い所へ移る。辞めさせる
電車を降りる。次の駅で降ろしてください。高所から飛び降りる。月面に降り立つ。
霜が降りる。主役から降ろされる。

【下りる・下ろす】 上から下へ動く。切り落とす。引き出す。新しくする。
幕が下りる。肩の荷を下ろす。腰を下ろす。錠が下りる。許可が下りる。枝を下ろす。
貯金を下ろす。下ろし立ての背広。書き下ろしの短編小説。

【卸す】 問屋が小売店に売り渡す。商品の数や価値を調べる。
小売りに卸す。卸売物価指数。卸問屋。卸値。棚卸し。

かえす・かえる

【返す・返る】元の場所や持ち主に移す。向きを逆にする。重ねて行う。
元の持ち主に返す。借金を返す。恩返し。正気に返る。返り咲き。手のひらを返す。
言葉を返す。とんぼ返り。読み返す。思い返す。

【帰す・帰る】元の場所に行かせる。
親元へ帰す。故郷へ帰る。生きて帰る。帰らぬ人となる。帰り道。

かえりみる

【顧みる】過ぎ去ったことを思い返す。気に掛ける。
半生を顧みる。顧みて他を言う。家庭を顧みる余裕がない。結果を顧みない。

【省みる】自らを振り返る。反省する。
我が身を省みる。自らを省みて恥じるところがない。

かえる・かわる

【変える・変わる】前と異なる状態になる。
形を変える。観点を変える。位置が変わる。顔色を変える。気が変わる。
心変わりする。声変わり。変わり種。

【換える・換わる】物と物を取り換える。
物を金に換える。名義を書き換える。車を乗り換える。現金に換わる。

【替える・替わる】新しく別のものにする。
頭を切り替える。クラス替えをする。振り替え休日。図表を差し替える*。
入れ替わる。日替わり定食。替え歌。

【代える・代わる】ある役割を別のものにさせる。
書面をもって挨拶に代える。父に代わって言う。身代わりになる。投手を代える。
余人をもって代え難い。親代わり。

* 「差しかえる」「入れかえる」「組みかえる」などの「かえる」については、「新しく別のものにする」意で「替」を当ててるが、別のものと「取り換える」と考えて、「換」を当ててることもある。

かおり・かおる

【香り・香る】鼻で感じられる良い匂い。
茶の香り。香水の香り。菊が香る。梅の花が香る。

【薫り・薫る】主に比喩的あるいは抽象的なかおり。
文化の薫り。初夏の薫り。菊薫る佳日。風薫る五月。

かかる・かける

【掛かる・掛ける】他に及ぶ。ぶら下げる。上から下に動く。上に置く。作用する。
迷惑が掛かる。疑いが掛かる。言葉を掛ける。保険を掛ける。看板を掛ける。
壁掛け。お湯を掛ける。布団を掛ける。腰を掛ける。ブレーキを掛ける。

【懸かる・懸ける】宙に浮く。託す。
月が中天に懸かる。雲が懸かる。優勝が懸かる。賞金を懸ける。命を懸けて。
懸（架）け橋*。

【架かる・架ける】かけ渡す。
橋が架かる。ケーブルが架かる。鉄橋を架ける。電線を架ける。

【係る】関係する。関係を持つ。
本件に係る訴訟。名誉に係る重要な問題。係り結び。

【賭ける】 賭け事をする。
大金を賭ける。賭けに勝つ。賭け事は一切やらない。

* 「かけ橋」は、本来、谷をまたいで「宙に浮く」ようにかけ渡した、つり橋のようなもので、「懸」を当ててるが、「かけ渡す」という視点から捉えて、「架」を当ててることも多い。

かく

【書く】 文字や文章を記す。
漢字を書く。楷書で氏名を書く。手紙を書く。小説を書く。日記を書く。

【描く】 絵や図に表す。
油絵を描く。ノートに地図を描く。漫画を描く。設計図を描く。眉を描く。

かげ

【陰】 光の当たらない所。目の届かない所。
山の陰。木陰で休む。日陰に入る。陰で支える。陰の声。陰口を利く。

【影】 光が遮られてできる黒いもの。光。姿。
障子に影が映る。影も形もない。影が薄い。月影。影を潜める。島影が見える。

かた

【形】 目に見える形状。フォーム。
ピラミッド形の建物。扇形の土地。跡形もない。柔道の形を習う。水泳の自由形。

【型】 決まった形式。タイプ。
型にはまる。型破りな青年。大型の台風。2014年型の自動車。血液型。鋳型。

かたい

【堅い】 中身が詰まっていて強い。確かである。
堅い材木。堅い守り。手堅い商売。合格は堅い。口が堅い。堅苦しい。

【固い】 結び付きが強い。揺るがない。
団結が固い。固い友情。頭が固い。固い決意。固く信じる。

【硬い】 (⇔軟らかい)。外力に強い。こわばっている。
硬い石。硬い殻を割る。硬い表現。表情が硬い。選手が硬くなっている。

かま

【釜】 炊飯などをするための器具。
鍋と釜。釜飯。電気釜。風呂釜。後釜に座る。

【窯】 焼き物などを作る装置。
炭を焼く窯。窯元に話を聞く。登り窯。

かわ

【皮】 動植物の表皮。本質を隠すもの。
虎の皮。木の皮。面の皮が厚い。化けの皮が剥がれる。

【革】 加工した獣の皮。
革のバンド。革製品を買う。革靴。なめし革。革ジャンパー。革細工。

かわく

【乾く】水分がなくなる。

空気が乾く。干し物が乾く。乾いた土。舌の根の乾かぬうちに。

【渴く】喉に潤いがなくなる。強く欲しがる。

喉が渴く。渴きを覚える。心の渴きを癒やす。親の愛情に渴く。

きく

【聞く】音が耳に入る。受け入れる。問う。嗅ぐ。

話し声を聞く。物音を聞いた。うわさを聞く。聞き流しにする。願いを聞く。
親の言うことを聞く。転居した事情を聞く。駅までの道を聞く。香を聞く。

【聴く】身を入れて耳を傾けて聞く。

音楽を聴く。国民の声を聴く。恩師の最終講義を聴く。

きく

【利く】十分に働く。可能である。

左手が利く。目が利く。機転が利く。無理が利く。小回りが利く。

【効く】効果・効能が表れる。

薬が効く。宣伝が効く。効き目がある。

きる

【切る】刃物で断ち分ける。つながりを断つ。

野菜を切る。切り傷。期限を切る。電源を切る。縁を切る。電話を切る。

【斬る】刀で傷つける。鋭く批判する。

武士が敵を斬（切）り捨てる*。世相を斬る。

* 「武士が敵をきり捨てる」の「きり捨てる」については、「刀で傷つける」意で「斬」を当てるが、「刃物で断ち分ける」意で広く一般に使われる「切」を当てることもできる。

きわまる・きわめる

【窮まる・窮める】行き詰まる。突き詰める。

進退窮まる。窮まりなき宇宙。真理を窮（究）める*。

【極まる・極める】限界・頂点・最上に至る。

栄華を極める。不都合極まる言動。山頂を極める。極めて優秀な成績。見極める。

【究める】奥深いところに達する。

学を究（窮）める*。

* 「突き詰める」意で用いる「窮」と、「奥深いところに達する」意で用いる「究」については、「突き詰めた結果、達した状態・状況」と「奥深いところに達した状態・状況」とがほぼ同義になることから、この意で用いる「窮」と「究」は、どちらを当てることもできる。

こう

【請う】そうするように相手に求める。

認可を請う。案内を請（乞）う*。紹介を請（乞）う*。

【乞う】そうするように強く願い求める。

乞う御期待。命乞いをする。雨乞いの儀式。慈悲を乞う。

* 「案内をこう」などの「こう」は、「そうするように相手に求める」意で「請」を当てるが、相手に対して「そうするようにお願いします」というニュアンスを強く出したい場合には「乞」を当てることもできる。

こえる・こす

【越える・越す】ある場所・地点・時を過ぎて、その先に進む。
県境を越える。峠を越す。選手としてのピークを越える。年を越す。度を越す。
乗り越える。勝ち越す。

【超える・超す】ある基準・範囲・程度を上回る。
現代の技術水準を超える建築物。人間の能力を超える。想定を超える災害。
10万円を超える額。1億人を超す人口。

こたえる

【答える】解答する。返事をする。
設問に答える。質問に対して的確に答える。名前を呼ばれて答える。

【応える】応じる。報いる。
時代の要請に応える。期待に応える。声援に応える。恩顧に応える。

こむ

【混む】混雑する。
電車が混（込）む*。混（込）み合う店内*。人混（込）みを避ける*。

【込む】重なる。入り組む。
負けが込む。日程が込んでいる。仕事が立て込む。手の込んだ細工を施す。

* 「混雑する」意では、元々、多くの人や物が重なるように1か所に集まる様子から「込む」と書かれてきたが、現在は、「混雑」という語との関連から「混む」と書く方が一般的である。

さがす

【探す】欲しいものを尋ね求める。
貸家を探す。仕事を探す。講演の題材を探す。他人の粗を探す。

【捜す】所在の分からない物や人を尋ね求める。
うちの中を捜す。犯人を捜す。紛失物を捜す。行方不明者を捜す。

さく

【裂く】破る。引き離す。
布を裂く。生木を裂く。二人の仲を裂く。岩の裂け目。切り裂く。

【割く】一部を分け与える。
時間を割く。事件の報道に紙面を割く。警備のために人手を割く。

さげる

【下げる】低くする。下に垂らす。
値段を下げる。室温を下げる。問題のレベルを下げる。等級を下げる。軒を下げる。

【提げる】つるすように手に持つ。
大きな荷物を手に提げる。手提げかばんで通学する。手提げ金庫。

さす

- 【差す】挟み込む。かざす。注ぐ。生じる。
腰に刀を差す。抜き差しならない状況にある。傘を差す。日が差す。目薬を差す。
差しつ差されつ。顔に赤みが差す。嫌気が差す。魔が差す。
- 【指す】方向・事物などを明らかに示す。
目的地を指して進む。名指しをする。授業中に二度指された。指し示す。
- 【刺す】とがった物を突き入れる。刺激を与える。野球でアウトにする。
針を刺す。蜂に刺される。串刺しにする。鼻を刺す嫌な臭い。本塁で刺される。
- 【挿す】細長い物を中に入れる。
花瓶に花を挿す。髪にかんざしを挿す。一輪挿し。

さます・さめる

- 【覚ます・覚める】睡眠や迷いなどの状態から元に戻る。
太平の眠りを覚ます。迷いを覚ます。目が覚める。寝覚めが悪い。
- 【冷ます・冷める】温度を下げる。高ぶった感情などを冷やす。
湯冷まし。湯が冷める。料理が冷める。熱が冷める。興奮が冷める。

さわる

- 【触る】触れる。関わり合う。
そっと手で触る。展示品に触らない。政治的な問題には触らない。
- 【障る】害や妨げになる。不快になる。
激務が体に障る。出世に障る。気に障る言い方をされる。

しずまる・しずめる

- 【静まる・静める】動きがなくなり落ち着く。
心が静まる。嵐が静まる。鳴りを静める。気を静める。
- 【鎮まる・鎮める】押さえ付けて落ち着かせる。鎮座する。
内乱が鎮まる。反乱を鎮める。痛みを鎮める。せきを鎮める薬。神々が鎮まる。
- 【沈める】水中などに没する。低くする。
船を沈める。ベッドに身を沈める。身を沈めて銃弾をよける。

しぼる

- 【絞る】ねじって水分を出す。無理に出す。小さくする。
手拭いを絞る。知恵を絞る。声を振り絞る。範囲を絞る。音量を絞る。
- 【搾る】締め付けて液体を取り出す。無理に取り立てる。
乳を搾る。レモンを搾った汁。ゴマの油を搾る。年貢を搾り取られる。

しまる・しめる

- 【締まる・締める】緩みのないようにする。区切りを付ける。
ひもが締まる。帯を締める。ねじを締める。引き締まった顔。心を引き締める。
財布のひもを締める。羽交い締め。売上げを月末で締める。申し込みの締め切り。
- 【絞まる・絞める】首の周りを強く圧迫する。
ネクタイで首が絞まって苦しい。柔道の絞め技。自らの首を絞める発言。

【閉まる・閉める】 開いているものを閉じる。
戸が閉まる。カーテンが閉まる。蓋を閉める。店を閉める。扉を閉め切りにする。

すすめる

【進める】 前や先に動かす。物事を進行させる。
前へ進める。時計を進める。交渉を進める。議事を進める。

【勧める*】 そうするように働き掛ける。
入会を勧める。転地を勧める。読書を勧める。辞任を勧める。

【薦める*】 推薦する。
候補者として薦める。良書を薦める。お薦めの銘柄を尋ねる。

* 「勧める」と「薦める」の使い分けについては、例えば、「読書」といった行為（本を読む）をするように働き掛けたり、促したりする場合に「勧める」を用い、「良書」や「候補者」といった特定の物や人がそれにふさわしい、望ましいとして推薦する場合に「薦める」を用いる。

する

【刷る】 印刷する。
名刺を刷る。新聞を刷る。版画を刷る。社名を刷り込む。刷り物。

【擦る】 こする。
転んで膝を擦りむく。マッチを擦る。擦り傷。洋服が擦り切れる。

すわる

【座る】 腰を下ろす。ある位置や地位に就く。
椅子に座る。上座に座る。社長のポストに座る。

【据わる】 安定する。動かない状態になる。
赤ん坊の首が据わる。目が据わる。腹の据わった人物。

せめる

【攻める】 攻撃する。
敵の陣地を一気に攻める。積極的に攻め込む。兵糧攻めにする。質問攻めにする。

【責める】 非難する。苦しめる。
過失を責める。無責任な言動を責める。自らを繰り返し責める。拷問で責められる。

そう

【沿う】 長く続いているものや決まりなどから離れないようにする。
川沿いの家。線路に沿って歩く。決定された方針に沿（添）って行動する*。
希望に沿（添）う*。

【添う】 そばに付いている。夫婦になる。
母に寄り添って歩く。病人の付き添い。仲むつまじく添い遂げる。連れ添う。

* 「沿う」は「決まりなどから離れないようにする」、「添う」は「そばに付いている」の意で、どちらも「そこから離れない」という共通の意味を持つため、「希望」や「方針」に「そう」という場合は、「沿」と「添」のどちらも当てることができる。

そなえる・そなわる

【備える・備わる】準備する。具備する。

台風に備える。調度品を備える。老後の備え。必需品は全て備わっている。
各部屋に消火器を備える。人徳が備わる。

【供える】神仏などの前に物をささげる。

お神酒を供える。霊前に花を供える。鏡餅を供える。お供え物。

たえる

【耐える】苦しいことや外部の圧力などをこらえる。

重圧に耐える。苦痛に耐える。猛暑に耐える。風雪に耐える。困苦欠乏に耐える。

【堪える】その能力や価値がある。その感情を抑える。

任に堪える。批判に堪える学説。鑑賞に堪えない。見るに堪えない作品。
憂慮に堪えない。遺憾に堪えない。

たずねる

【尋ねる】問う。探し求める。調べる。

道を探ねる。研究者に尋ねる。失踪した友人を探ねる。尋ね人。由来を探ねる。

【訪ねる】おとずれる。

知人を訪ねる。史跡を訪ねる。古都を訪ねる旅。教え子が訪ねてくる。

たたかう

【戦う】武力や知力などを使って争う。勝ち負けや優劣を競う。

敵と戦う。選挙で戦う。優勝を懸けて戦う。意見を戦わせる。

【闘う】困難や障害などに打ち勝とうとする。闘争する。

病気と闘う。貧苦と闘う。寒さと闘う。自分との闘い。労使の闘い。

たつ

【断つ】つながっていたものを切り離す。やめる。

退路を断つ。国交を断（絶）つ*。関係を断（絶）つ*。快刀乱麻を断つ。酒を断つ。

【絶つ】続くはずのものを途中で切る。途絶える。

縁を絶つ。消息を絶つ。悪の根を絶つ。最後の望みが絶たれる。後を絶たない。

【裁つ】布や紙をある寸法に合わせて切る。

生地を裁つ。着物を裁つ。紙を裁つ。裁ちばさみ。

* 「国交や関係をたつ」の「たつ」については、「つながっていたものを切り離す」すなわち「断ち切る」意で「断」を当ててるが、一方で、ほぼ同義の語に「断絶」という語もあることなどから「絶」を当ててることもできる。

たつ・たてる

【立つ・立てる】直立する。ある状況・立場に身を置く。離れる。成立する。

演壇に立つ。鳥肌が立つ。優位に立つ。岐路に立つ。使者に立つ。席を立つ。
見通しが立つ。計画を立てる。手柄を立てる。評判が立つ。相手の顔を立てる。

【建つ・建てる】建物や国などを造る。

家が建つ。ビルを建てる。銅像を建てる。一戸建ての家。国を建てる。都を建てる。

たっとい・たつとぶ・とうとい・とうとぶ

【尊い・尊ぶ】尊厳があり敬うべきである。
尊い神。尊い犠牲を払う。神仏を尊ぶ。祖先を尊ぶ。

【貴い・貴ぶ】貴重である。
貴い資料。貴い体験。和をもって貴しとなす。時間を貴ぶ。

たま

【玉】宝石。円形や球体のもの。
玉を磨く。玉にきず。運動会の玉入れ。シャボン玉。玉砂利。善玉悪玉。

【球】球技に使うボール。電球。
速い球を投げる。決め球を持っている。ピンポン球。電気の球。

【弾】弾丸。
拳銃の弾。大砲に弾を込める。流れ弾に当たって大けがをする。

つかう

【使う】人や物などを用いる。
通勤に車を使う。重油を使う。機械を使って仕事をする。予算を使う。道具を使う。
人間関係に神経を使う。頭を使う。人使いが荒い。大金を使う。体力を使う仕事。

【遣う*】十分に働かせる。
心を遣(使)う。気を遣(使)う。安否を気遣う。息遣いが荒い。心遣い。言葉遣い。
仮名遣い。筆遣い。人形遣い。上目遣い。無駄遣い。金遣い。小遣い銭。

* 現在の表記実態としては、「使う」が広く用いられる関係で、「遣う」を動詞の形で用いることは少なく、「〇〇遣い」と名詞の形で用いることがほとんどである。特に、心の働き、技や金銭などに関わる「〇〇づかい」の場合に「遣」を当てることが多い。

つく・つける

【付く・付ける】付着する。加わる。意識などを働かせる。
墨が顔に付く。足跡が付く。利息が付く。名前を付ける。知識を身に付ける。
条件を付ける。味方に付く。付け加える。気を付ける。目に付く。

【着く・着ける】達する。ある場所を占める。着る。
手紙が着く。東京に着く。船を岸に着ける。車を正面玄関に着ける。席に着く。
衣服を身に着ける。

【就く・就ける】仕事や役職、ある状況などに身を置く。
職に就く。役に就ける。床に就く。緒に就く。帰路に就く。眠りに就く。

つぐ

【次ぐ】すぐ後に続く。
事件が相次ぐ。首相に次ぐ実力者。富士山に次ぐ山。取り次ぐ。次の日。

【継ぐ】後を受けて続ける。足す。
跡を継ぐ。引き継ぐ。布を継ぐ。言葉を継ぐ。継ぎ目。継ぎを当てる。

【接ぐ】つなぎ合わせる。
骨を接ぐ。新しいパイプを接ぐ。接ぎ木。

つくる

【作る】こしらえる。
米を作る。規則を作る。新記録を作る。計画を作る。詩を作る。笑顔を作る。
会社を作る。機会を作る。組織を作る。

【造る】大きなものをこしらえる。醸造する。
船を造る。庭園を造る。宅地を造る。道路を造る。数寄屋造りの家。酒を造る。

【創る*】独創性のあるものを生み出す。
新しい文化を創（作）る。画期的な商品を創（作）り出す。

* 一般的には「創る」の代わりに「作る」と表記しても差し支えないが、事柄の「独創性」を特に強調したい場合に「創る」を使う。

つつしむ

【慎む】控え目にする。
身を慎む。酒を慎む。言葉を慎む。

【謹む】かしこまる。
謹んで承る。謹んで祝意を表する。

つとまる・つとめる

【勤まる・勤める】給料をもらって仕事をする。仏事を行う。
この会社は私には勤まらない。銀行に勤める。永年勤め上げた人。勤め人。
本堂でお勤めをする。法事を勤める。

【務まる・務める】役目や任務を果たす。
彼には主役は務まらない。会長が務まるかどうか不安だ。議長を務める。
親の務めを果たす。

【努める】力を尽くす。努力する。
完成に努める。解決に努める。努めて早起きする。

とかす・とく・とける

【解かす・解く・解ける】固まっていたものが緩む。答えを出す。元の状態に戻る。
結び目を解く。ひもが解ける。雪解け。問題を解く。暗号が解ける。緊張が解ける。
誤解が解ける。包囲を解く。会長の任を解く。

【溶かす・溶く・溶ける】液状にする。固形物などを液体に入れて混ぜる。一体となる。
鉄を溶かす。雪や氷が溶（解）ける*。チョコレートが溶ける。砂糖が水に溶ける。
絵の具を溶かす。小麦粉を水で溶く。地域社会に溶け込む。

* 「雪や氷がとける」の「とける」については、「雪や氷が液状になる」意で「溶」を当てるが、「固まっていた雪や氷が緩む」と捉えて「解」を当てることもできる。「雪解け」はこのような捉え方で「解」を用いるものである。

ととのう・ととのえる

【整う・整える】乱れがない状態になる。
体制が整う。整った文章。隊列を整える。身辺を整える。呼吸を整える。

【調う・調える】必要なものがそろそろ。望ましい状態にする。
家財道具が調う。晴れ着を調える。費用を調える。味を調える。

とぶ

【飛ぶ】空中を移動する。速く移動する。広まる。順序を超えて進む。
鳥が空を飛ぶ。海に飛び込む。アメリカに飛ぶ。家を飛び出す。デマが飛ぶ。
うわさが飛ぶ。途中を飛ばして読む。飛び級。飛び石。

【跳ぶ】地面を蹴って高く上がる。
溝を跳ぶ。三段跳び。跳び上がって喜ぶ。跳びはねる*。うれしくて跳び回る。
縄跳びをする。跳び箱。

* 「跳」は、常用漢字表に「はねる」と「とぶ」の二つの訓が採られているので、「跳び跳ねる」と表記することができるが、読みやすさを考えて「跳びはねる」と表記することが多い。

とまる・とめる

【止まる・止める】動きがなくなる。
交通が止まる。水道が止まる。小鳥が木の枝に止（留）まる*。笑いが止まらない。
息を止める。車を止める。通行止め。止まり木。

【留まる・留める】固定される。感覚に残る。とどめる。
ピンで留める。ボタンを留める。目に留まる。心に留める。留め置く。局留めで送る。

【泊まる・泊める】宿泊する。停泊する。
宿直室に泊まる。友達を家に泊める。船が港に泊まる。

* 「小鳥が木の枝にとまる」の「とまる」については、小鳥が飛ぶのをやめて木の枝に静止する（動きがなくなる）意で「止」を当てるが、木の枝にとどまっている（固定される）ことに注目して「留」を当てることもできる。

とらえる

【捕らえる】取り押さえる。
逃げようとする犯人を捕らえる。獲物の捕らえ方。密漁船を捕らえる。

【捉える】的確につかむ。
文章の要点を捉える。問題の捉え方が難しい。真相を捉える。聴衆の心を捉える。

とる

【取る】手で持つ。手に入れる。書き記す。つながる。除く。
手に取る。ペンを取る。魚を取る*。資格を取る。新聞を取る。政権を取る。
年を取る。メモを取る。連絡を取る。着物の汚れを取る。疲れを取る。痛みを取る。

【採る】採取する。採用する。採決する。
血を採る。きのこを採る。指紋を採る。高校の卒業生を採る。会議で決を採る。

【執る】手に持って使う。役目として事に当たる。
筆を執る。事務を執る。指揮を執る。政務を執る。式を執り行う。

【捕る】つかまえる。
ねずみを捕る。鯨を捕る。外野フライを捕る。生け捕る。捕り物。

【撮る】撮影する。
写真を撮る。映画を撮る。ビデオカメラで撮る。

* 「魚をとる」の「とる」は「手に入れる」という意味で「取」が用いられるが、「つかまえる」という意味で「捕」を当てることもできる。

ない

【無い*】(⇔有る・在る)。存在しない。所有していない。
有ること無いこと言い触らす。無くて七癖。無い袖は振れぬ。無い物ねだり。

【亡い】死んでこの世にいない。
今は亡い人。友人が亡くなる。亡き父をしのぶ。

* 「今日は授業がない」「時間がない」「金がない」などの「ない」は、漢字で書く場合、「無」を当てるが、現在の表記実態としては、仮名書きの「ない」が一般的である。

なおす・なおる

【直す・直る】正しい状態に戻す。置き換える。
誤りを直す。機械を直す。服装を直す。故障を直す。ゆがみが直る。
仮名を漢字に直す。

【治す・治る】病気やけがから回復する。
風邪を治す。けがが治る。傷を治す。治りにくい病気。

なか

【中】(⇔外)。ある範囲や状況の内側。中間。
箱の中。家の中。クラスの中で一番足が速い。嵐の中を帰る。両者の中に入る。

【仲】人と人との関係。
仲がいい。仲を取り持つ。仲たがいする。話し合っって仲直りする。犬猿の仲。

ながい

【長い】(⇔短い)。距離や時間などの間隔が大きい。
長い髪の毛。長い道。長い年月。気が長い。枝が長く伸びる。長続きする。
長い目で見る。

【永い】永久・永遠と感じられるくらい続くさま。
永い眠りに就く。永の別れ。永くその名を残す。永のいとまを告げる。
末永(長)く契る*。

* 時間の長短に関しては、客観的に計れる「長い」に対して、「永い」は主観的な思いを込めて使われることが多い。「末ながく契る」は、その契りが「永久・永遠と感じられるくらい続く」ようにという意で「永」を当てるが、客観的な時間の長さという視点から捉えて、「長」を当てることもできる。

ならう

【習う】教わる。繰り返して身に付ける。
先生にピアノを習う。英語を習う。習い覚えた技術。習い性となる。見習う。

【倣う】手本としてまねる。
前例に倣う。西洋に倣った法制度。先人のひそみに倣う。右へ倣え。

におい・におう

【匂い・匂う】主として良いにおい。
梅の花の匂い。香水がほのかに匂う。

【臭い・臭う】主として不快なにおいや好ましくないにおい。
魚の腐った臭い。生ごみが臭う。ガスが臭う。

のせる・のる

【乗せる・乗る】乗り物に乗る。運ばれる。応じる。勢い付く。
バスに乗る。タクシーに乗せて帰す。電車に乗って行く。電波に乗せる。
風に乗って飛ぶ。時流に乗る。相談に乗る。計略に乗せる。凶に乗る。

【載せる・載る】積む。上に置く。掲載する。
自動車に荷物を載せる。棚に本を載せる。机に載っている本。新聞に載った事件。
雑誌に広告を載せる。名簿に載る。

のぞむ

【望む】遠くを眺める。希望する。
山頂から富士を望む。世界の平和を望む。自重を望む。多くは望まない。

【臨む】面する。参加する。対する。
海に臨む部屋。式典に臨む。試合に臨む。厳罰をもって臨む。難局に臨む。

のばす・のびる・のべる

【伸ばす・伸びる・伸べる】まっすぐする。増す。そのものが長くなる。差し出す。
手足を伸ばす。旅先で羽を伸ばす。伸び伸びと育つ。勢力を伸ばす。草が伸びる。
身長が伸びる。学力が伸びる。手を伸べて助け起こす。救いの手を伸べる。

【延ばす・延びる・延べる】遅らす。つながって長くなる。重複も認め合計する。広げる。
出発を延ばす。開会を延ばす。支払いが延び延びになる。地下鉄が郊外まで延びる。
寿命が延びる。終了時間が予定より10分延びた。延べ1万人の観客。金の延べ棒。

のぼる

【上る】(⇔下る)。上方に向かう。達する。取り上げられる。
階段を上る。坂を上る*。川を上る。出世コースを上る。上り列車。
損害が1億円に上る。話題に上る。うわさに上る。食卓に上る。

【登る】自らの力で高い所へと移動する。
山に登る。木に登る。演壇に登る。崖をよじ登る*。富士山の登り口。

【昇る】(⇔降りる・沈む)。一気に高く上がる。
エレベーターで昇る*。日が昇(上)る*。天に昇(上)る*。高い位に昇る。

* 「坂を上る」「崖をよじ登る」「エレベーターで昇る」の「上る」「登る」「昇る」は、「上の方向に移動する」という意味では共通している。この意味で使う「上る」は、広く一般に用いるが、「登る」は急坂や山道などを一步一步確実に上がっていく様子、「昇る」は一気に上がっていく様子を表すのに用いることが多い。また、「日がのぼる」「天にのぼる」の「のぼる」に「昇」と「上」のどちらを当てることができるのも、上述のような捉え方に基づくものである。

はえ・はえる

【映え・映える】光を受けて照り輝く。引き立って見える。
夕映え。紅葉が夕日に映える。紺のスーツに赤のネクタイが映える。

【栄え・栄える】立派に感じられる。目立つ。
栄えある勝利。見事な出来栄え。見栄えがする。栄えない役回り。

はかる

【図る】企てる。うまく処理する。
合理化を図る。解決を図る。身の安全を図る。再起を図る。局面の打開を図る。
便宜を図る。

【計る】時間や数などを数える。考える。

時間を計る。計り知れない恩恵。タイミングを計る。頃合いを計って発言する。

【測る】長さ・高さ・深さ・広さ・程度を調べる。推測する。

距離を測る。標高を測る。身長を測る*。水深を測る。面積を測る。血圧を測る。温度を測る。運動能力を測る。測定器で測る。真意を測りかねる。

【量る】重さ・容積を調べる。推量する。

重さを量る。体重を量る*。立体の体積を量る。容量を量る。心中を押し量る。

【謀る】良くない事をたくらむ。

暗殺を謀る。悪事を謀る。会社の乗っ取りを謀る。競争相手の失脚を謀る。

【諮る】ある問題について意見を聞く。

審議会に諮る。議案を委員会に諮る。役員会に諮って決める。

* 「身長と体重をはかる」という場合の「はかる」は、「測定する」と言い換えられることなどから、「量る」よりも「測る」を用いる方が一般的である。

はじまる・はじめ・はじめて・はじめ

【初め・初めて】ある期間の早い段階。最初。先の方のもの。

初めはこう思った。秋の初め。年の初め。初めて聞いた話。初めてお目に掛かる。初めての経験。初めからやり直す。初めの曲の方がいい。

【始まる・始め*・始める】開始する。始めたばかりの段階。物事の起こり。

懇親会が始まる。仕事を始める。書き始める。手始め。仕事始め。始めと終わり。国の始め。人類の始め。

* 「校長をはじめ、教職員一同……」などという場合の「はじめ」については、漢字を当てのであれば、その意味から考えて、「始」を当てることになるが、仮名で書かれることも多い。

はな

【花】植物の花（特に桜の花）。花のように人目を引くもの。

花が咲く。花を生ける。花も実もない。花道を飾る。両手に花。花の都。花形。

【華】きらびやかで美しい様子。本質を成す最も重要な部分。

華やかに着飾る。華やかに笑う。華々しい生涯。国風文化の華。武士道の華。

はなす・はなれる

【離す・離れる】距離や間隔が広がる。離脱する。

間を離す。ハンドルから手を離す。切り離す。駅から遠く離れた町。離れ島。離れ離れになる。戦列を離れる。職を離れる。

【放す・放れる】拘束や固定を外す。放棄する。

鳥を放す。魚を川に放す。違法駐車を野放しにする。放し飼い。手放しで褒める。矢が弦を放れる。見放す。

はやい・はやまる・はやめる

【早い・早まる・早める】時期や時刻が前である。時間が短い。予定よりも前になる。

時期が早い。早く起きる。気が早い。早変わり。早口。矢継ぎ早。早まった行動。順番が早まる。出発時間が早まる。開会の時刻を早める。

【速い・速まる・速める】スピードがある。速度が上がる。

流れが速い。投手の球が速い。テンポが速い。車の速さ。改革のスピードが速まる。脈拍が速まる。足を速める。

はる

【張る】 広がる。引き締まる。取り付ける。押し通す。

氷が張る。根が張る。策略を張り巡らす。気が張る。張りのある声。テントを張る。テニスのネットを張る。板張りの床。論陣を張る。強情を張る。片意地を張る。

【貼る】 のりなどで表面に付ける。

ポスターを貼る。切手を貼り付ける。貼り紙。貼り薬。壁にタイルを貼（張）る*。

* 「タイルをはる」の「はる」については、「タイルをのりなどで表面に付ける」という意で「貼」を当てるが、「板張りの床」などと同様、「タイルを壁や床一面に取り付ける（敷き詰める）」意では、「張」を当てることが多い。

ひく

【引く】 近くに寄せる。線を描く。参照する。やめる。注意や関心などを向けさせる。

綱を引く。水道を引く。田に水を引く。引き金を引く。風邪を引く。線を引く。設計図を引く。辞書を引く。例を引く。身を引く。人目を引く。同情を引く。

【弾く】 弦楽器や鍵盤楽器を奏でる。

ピアノを弾く。バイオリンを弾く。ショパンの曲を弾く。ギターの弾き語り。弾き手。

ふえる・ふやす

【増える・増やす】 (⇔減る・減らす)。数や量が多くなる。

人数が増える。水かさが増える。出費が増える。資本金を増やす。仲間を増やす。

【殖える*・殖やす*】 財産や動植物が多くなる。

財産が殖える。資産を殖やす。家畜が殖える。ネズミが殖える。株分けで殖やす。

* 「利殖・繁殖」という語との関係を意識して「殖える・殖やす」と「殖」を当てるが、現在の表記実態としては、「増える・増やす」と「増」を用いることが多い。

ふく

【吹く】 空気が流れ動く。息を出す。表面に現れる。

そよ風が吹く。口笛を吹く。鯨が潮を吹（噴）く*。干し柿が粉を吹く。吹き出物。不満が吹（噴）き出す*。汗が吹（噴）き出る*。

【噴く】 気体や液体などが内部から外部へ勢いよく出る。

火山が煙を噴く。エンジンが火を噴く。火を噴き出す。温泉が噴き出る。

* 「鯨が潮をふく」は、鯨が呼気とともに海水を体外に出すところに視点を置いた場合は「吹」を、体内から体外に勢いよく出るところに視点を置いた場合は「噴」を当てる。
また、「不満」や「汗」が「表面に現れる」とき、その現れ方の激しさに視点を置いた場合には「噴」を当てることもできる。

ふける

【更ける】 深まる。

深々と夜が更ける。秋が更ける。夜更かしする。

【老ける】 年を取る。

年の割には老けて見える。老け込む。この1、2年で急に老けた。

ふね

【船】比較的大型のもので、一般語として用いる。
船の甲板。船で帰国する。船旅。親船。船乗り。船賃。船荷。船会社。釣り船（舟）*。
渡し船（舟）*。

【舟】主に小型で簡単な作りのもの。
舟をこぐ。小舟。ささ舟。助け舟（船）を出す*。

* 「釣り船」「渡し船」は、動力を使わない小型の「ふね」の場合は、「釣り舟」「渡し舟」と表記することが多い。また、「助けふね」は救助船の意味で使う場合は「助け船」、比喩的に助けとなるものという意味で使う場合は、「助け舟」と表記することが多い。

ふるう

【振るう】盛んになる。勢いよく動かす。
士気が振るう。事業が振るわない。熱弁を振るう。権力を振るう。

【震う】小刻みに揺れ動く。
声を震わせる。決戦を前に武者震いする。思わず身震いする。

【奮う】気力があふれる。
勇気を奮って立ち向かう。奮って御参加ください。奮い立つ。奮い起こす。

ほか

【外】ある範囲を超えたところ。
思いの外うまく事が運んだ。想像の外の事件が起こる。もっての外。

【他】それ以外のもの。
どこか他を探す。この他に用意するものはない。他の人にも尋ねる。

まざる・まじる・まぜる

【交ざる・交じる・交ぜる】元の素材が判別できる形で一緒になる。
麻が交ざっている。漢字仮名交じり文。交ぜ織り。カードを交ぜる。白髪交じり。
子供たちに交ざって遊ぶ。小雨交じりの天気。

【混ざる・混じる・混ぜる】元の素材が判別できない形で一緒になる。
酒に水が混ざる。異物が混じる。雑音が混じる。コーヒーにミルクを混ぜる。
セメントに砂を混ぜる。絵の具を混ぜる。

まち

【町】行政区画の一つ。人家が多く集まった地域。
町と村。町役場。町ぐるみの歓迎。下町。町へ買物に行く。町外れ。

【街】商店が並んだにぎやかな通りや地域。
街を吹く風。学生の街。街の明かりが恋しい。街の声。街角に立つ。

まるい

【丸い】球形である。角がない。
丸いボール。地球は丸い。背中が丸くなる。角を丸く削る。丸く収める。

【円い】円の形である。円満である。
円（丸）い窓*。円（丸）いテーブル*。円（丸）く輪になる*。円い人柄。

* 窓やテーブル、輪の形状が円形である場合に「円い」と「円」を用いるが、現在の漢字使用においては、球形のものだけでなく、円形のものに対しても、一般に「丸」が用いられる。

まわり

【回り】回転。身辺。円筒形の周囲。

モーターの回りが悪い。回り舞台。時計回り。身の回り。胴回り。首回り。

【周り】周囲。周辺。

池の周り。周りの人。周りの目が気になる。学校の周りには自然が残っている。

みる

【見る】眺める。調べる。世話する。

遠くの景色を見る。エンジンの調子を見る。顔色を見る。面倒を見る。親を見る。

【診る】診察する。

患者を診る。脈を診る。胃カメラで診る。医者に診てもらう。

もと

【下】影響力や支配力の及ぶ範囲。～という状態・状況で。物の下の辺り。

法の下に平等。ある条件の下で成立する。一撃の下に倒した。花の下で遊ぶ。真実を白日の下にさらす。灯台下暗し。足下（元）が悪い*。

【元】物事が生じる始まり。以前。近くの場所。もとで。

口は災いの元。過労が元で入院する。火の元。家元。出版元。元の住所。元首相。親元に帰る。手元に置く。お膝元。元が掛かる。

【本】（⇔末）。物事の根幹となる部分。

生活の本を正す。本を絶つ必要がある。本を尋ねる。

【基】基礎・土台・根拠。

資料を基にする。詳細なデータを基に判断する。これまでの経験に基づく。

* 「足もと」の「もと」は、「足が地に着いている辺り」という意で「下」を当てるが、「足が着いている地面の周辺（近くの場所）」という視点から捉えて、「元」を当てることもできる。

や

【屋*】建物。職業。屋号。ある性質を持つ人。

長屋に住む。小屋。屋敷。酒屋。八百屋。三河屋。音羽屋。頑張り屋。照れ屋。

【家*】人が生活する住まい。

貸家を探す。狭いながらも楽しい我が家。借家住まいをする。家主。家賃。空き家。

* 「屋」も「家」もどちらも「建物」という意味では共通するが、「屋」は、主として、外側から捉えた建物の形状に視点を置いて用い、「家」は、主として、建物を内側から捉えたときの生活空間に視点を置いて用いる。

やさしい

【易しい】（⇔難しい）。たやすい。分かりやすい。

易しい問題が多い。誰にでもできる易しい仕事。易しく説明する。易しい英語。

【優しい】思いやりがある。穏やかである。上品で美しい。

優しい言葉を掛ける。誰にも優しく接する。気立ての優しい少年。物腰が優しい。

やぶる・やぶれる

【破る・破れる】引き裂くなどして壊す。背く。損なう。
手紙を破る。障子が破れる。誓いを破る。約束を破る。均衡が破れる。静寂が破れる。

【敗れる】負ける。
大会の初戦で敗れる。勝負に敗れる。人生に敗れる。選挙に敗れる。敗れ去る。

やわらかい・やわらかだ

【柔らかい・柔らかだ】ふんわりしている。しなやかである。穏やかである。
柔らかい毛布。身のこなしが柔らかだ。頭が柔らかい。柔らかな物腰の人物。
物柔らかな態度。

【軟らかい・軟らかだ】(⇔硬い)。手応えや歯応えがない。緊張や硬さがない。
軟らかい肉。軟らかな土。地盤が軟らかい。軟らかく煮た大根。軟らかい表現。

よ

【世】その時の世の中。
明治の世*。世の中が騒然とする。この世のものとは思えない美しさ。世渡り。
世が世ならば。

【代】ある人や同じ系統の人が国を治めている期間。
明治の代*。260年続いた徳川の代。武家の代。

* 「明治のよ」については、「明治時代の世の中」という意では「明治の世」, 「明治天皇の治世下にある」という意では「明治の代」と使い分ける。

よい

【良い】優れている。好ましい。
品質が良い。成績が良い。手際が良い。発音が良い。今のは良い質問だ。感じが良い。
良い話がある。仲間受けが良い。良い習慣を身に付ける。

【善い】道徳的に望ましい。
善い行い。世の中のために善いことをする。人に親切にするのは善いことである。

よむ

【読む】声に出して言う。内容を理解する。推測する。
大きな声で読む。子供に読んで聞かせる。秒読み。この本は小学生が読むには難しい。
人の心を読む。手の内を読む。読みが浅い。読みが外れる。

【詠む】詩歌を作る。
和歌や俳句を詠む。一首詠む。歌に詠まれた名所。題に合わせて詠む。

わかる

【分かれる】一つのものが別々の幾つかになる。違いが生じる。
道が二つに分かれる。敵と味方に分かれる。人生の分かれ道。勝敗の分かれ目。
意見が分かれる。評価が分かれる。

【別れる】一緒にいた身内や友人などと離れる。
幼い時に両親と別れる。家族と別れて住む。けんか別れになる。物別れに終わる。

わく

【沸く】水が熱くなったり沸騰したりする。興奮・熱狂する。
風呂が沸く。湯が沸く。すばらしい演技に場内が沸く。熱戦に観客が沸きに沸いた。

【湧く】地中から噴き出る。感情や考えなどが生じる。次々と起こる。
温泉が湧く。石油が湧き出る。勇気が湧く。疑問が湧く。アイデアが湧く。
興味が湧かない。雲が湧く。拍手や歓声が湧く。

わざ

【技】技術・技芸。格闘技などで一定の型に従った動作。
技を磨く。技を競う。技に切れがある。柔道の技。技を掛ける。投げ技が決まる。

【業】行いや振る舞い。仕事。
人間業とも思えない。神業。至難の業。軽業。業師。物書きを業とする。

わずらう・わずらわす

【煩う・煩わす】思い悩む。面倒で手間が掛かる。
思い煩う。心を煩わす。人手を煩わす。雑事に煩わされる。

【患う】病気になる。
胸を患う。三年ほど患う。大病を患う。長患いをする。